



1993年(インターネット商用化直前)、
Kbpsの時代にGbps時代を見据えた
新たな社会像を展望



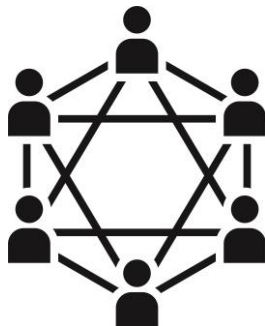
インターネットは
社会と金融を大きく変革

AIやブロックチェーン等の技術革新を
いかに健全に活用していくか

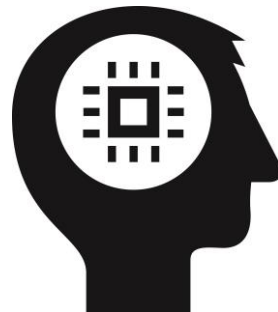
送金・決済



Web 3.0



AI



これまで

現在

これから

- 資金移動業の創設
- QRコード決済は国民的インフラに
- 異業種からの参入

- 更なる環境整備
- BaaS・埋込型金融の進展(既存・新興プレイヤーの協働)

- 決済サービスを起点とした金融／非金融サービスの一体的な提供

これまで

- 過去の教訓を踏まえた制度整備(包括的なデジタル資産規制枠組み)
- 高水準の利用者保護を実現

現在

- 電子決済手段等取引業の第一号登録
- 一層の環境整備(暗号資産仲介業の創設など)
- トークナイゼーション(デジタル証券等)の進展

これから

- ステ이블コイン等の活用
- 投資対象としての暗号資産の在り方を検討

これまで

- ブームと幻滅期を幾度となく繰り返しつつ発展

現在

- 生成AIが金融機関等のビジネスモデルを抜本的に変革する可能性
- リスクや規制を懸念して躊躇する声もあるが、「チャレンジしないリスク」も意識すべき局面
- 「AIディスカッションペーパー」を本日公表

これから

- 金融セクターにおける積極的な活用を後押し
- 「官民ステークホルダー勉強会」の立ち上げ

社会インフラとしてのフィンテックへ

- 金融・非金融の垣根がほぼ無くなる
 - ・ 他領域でのリーディングカンパニーの金融分野への参入
 - ・ 様々な金融がスマホアプリなどに受け込み
- 社会受容の進展（例：QRコードの年間決済額**10**兆円突破）
- 既存／新興プレイヤーの連携による顧客志向のサービス提供

金融庁の役割

■ 市場の公平な審判 & チアリーダー

ー 公平な競争環境を整え、事業者の新たなチャレンジを全力で応援

■ イノベーションの共創に向けたパートナー

共にチャレンジして、10年後の金融を創造

